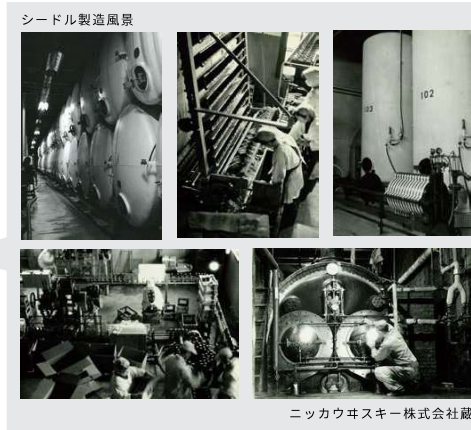


- 戦時中
  - ・吉井勇がリンゴ酒製造免許を取得
- 1945(昭和20)年
  - ・日本果実酒株式会社に商号変更
- 1949(昭和24)年
  - ・日本酒造工業株式会社に商号変更
  - ・同社では、「吉野桜」や焼酎を製造、北海道などに送る



- 1950(昭和25)年
  - ・このころより、吉井勇がシードルに造詣の深い東京大学農学部坂口謹一郎博士に相談をもちかける。(その後、坂口の仲介でアサヒビール山本爲三郎社長との間で話がまとまる)
- 1953(昭和28)年
  - ・吉井勇が2ヶ月間ヨーロッパ視察
- 1954(昭和29)年
  - ・朝日ビール株式会社の後援により、朝日シードル株式会社弘前工場創業。(社長：吉井勇、取締役：山本爲三郎、監査役：フランソワ・シーバリエー、相馬友彦)
  - ・1億3000万円を投資し、170石入り大型貯蔵タンク98基、スウェーデン製遠心分離機2台を新たに購入。米国から輸入した瓶詰め機、濃縮機などの製造設備が備えられた。最終的には年間200万箱のリンゴを使用し、シードル10万石の製造を見込んでいた



- 1960(昭和35)年
  - ・当時の朝日麦酒社長・山本爲三郎がシードル事業の継続をニッカウヰスキー株式会社に依頼。同社がシードル事業を引き続き、ニッカウヰスキー弘前工場として操業開始(初代工場長 岩田晴男)
  - ・秋から東北地方向けウヰスキーの製造を開始
  - ・7月～10月1日までの間に瓶詰め設備の増設
  - ・電気工事は社員の自力で行われた
- 1965(昭和40)年
  - ・ニッカウヰスキーが弘前市栄町に新工場を建設し移転
- 1967(昭和42)年
  - ・吉井酒造株式会社に商号変更
- 1975(昭和50)年
  - ・一部を取り壊し合棟し、現存する煉瓦倉庫の形となる

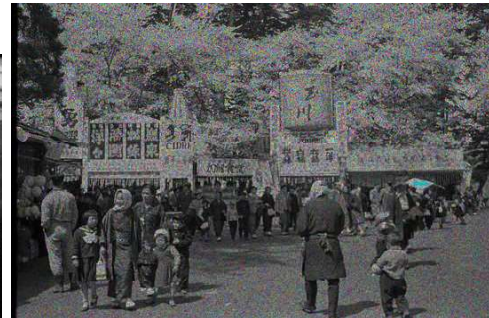
- 1956(昭和31)年
  - ・1月8日、朝日シードル発売。家庭向け婦人向け軽飲料として、発売される(アルコール成分4.3%、価格70円)
  - ・東洋では当時唯一の果実発泡酒であり、サイゴン、沖縄との貿易契約が成立
  - ・技術顧問としてミシェル・ヴィエルをフランスから弘前に3か月間招く

1940's -

- 1940(昭和15)年
  - ・佐藤弥作が「ミユキリンゴ酒」「ミユキシャンパン」の製造に着手
- 1941(昭和16)年
  - ・清酒が配給制となり、その不足分をリンゴ酒で補うようになる
- 1942(昭和17)年
  - ・輸送力の逼迫のため、リンゴ加工業が発達、軍需用のみならず民需用として一般に出回った
- 1944(昭和19)年
  - ・太宰治『津軽』が出版される
  - ・「蟹田」の章でりんご酒についての描写あり、戦時中の津軽ではリンゴ酒が多く出回っていたものの、あくまで清酒の代用品であり、あまり歓迎されていなかった様子が描かれる
- 1945(昭和20)年
  - ・青函連絡船が空襲で壊滅、青森市大空襲
  - ・8月15日終戦
- 1949(昭和24)年
  - ・弘前大学設置

1950's -

- 1952(昭和27)年
  - ・弘前電気鉄道の駅として現在の中央弘前駅が開業(吉野町1-6)
- 1959(昭和34)年
  - ・12月5日、奈良美智生まれる



1960's -

- 1963(昭和38)年
  - ・豪雪
- 1968(昭和43)年
  - ・吉井勇、酒造業界への功績により藍綬褒章を受章。(吉井勇は吉井酒造代表取締役の傍ら、弘前観光協会初代会長、県酒造組合連合会会長、日本酒造組合中央会東北支部長を歴任した)
- 1974(昭和49)年
  - ・映画「宵待草」(監督：神代辰巳)制作(吉野町煉瓦倉庫を取り囲む黒板塀が映画の一場面に登場)
  - ・吉井勇、勲5等旭日章を受章
- 1977(昭和52)年
  - ・昭和52年 集中豪雨で土淵川、寺沢川ふたたび氾濫

